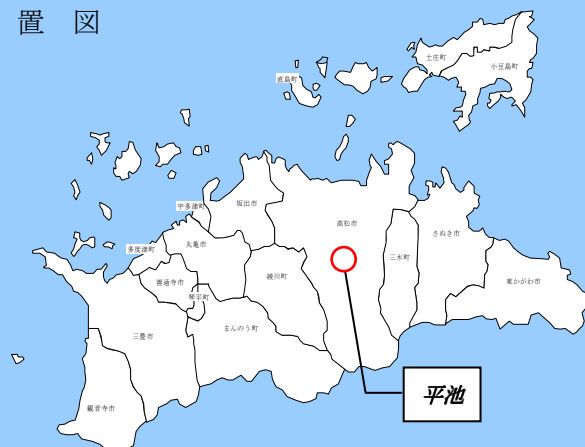


平池 (へいけ)

位置図



諸元

貯水量	1,240 千m ³
満水面積	32.5 ha
受益面積	117 ha
堤高	11.4 m
堤長	700 m

高松市南部の平池の築造は「香川郡東村々溜池記録」によると、^{きゅうあん}久安年間（1145～1150年）といわれ、また「讃岐国大日記」には、^{じしゅう}治承2年（1178年）^{たいらのきよもり}平清盛の命により、^{あわのみんぶたぐちしげよし}阿波民部田口成良が再築したとも記されています。このように築造以来800年以上の歳月を経過している平池は高松市のため池の中でも最も古いため池の一つといわれています。

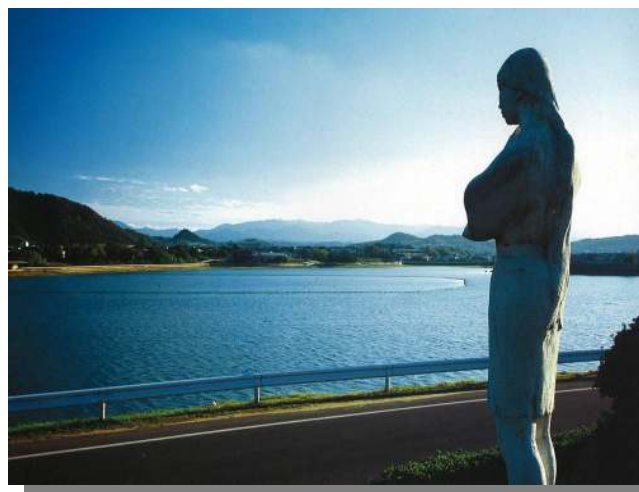
築造当初は池全体がもっと北寄りにあり、幾度の災害や改修の結果、現在地に移ったのは400年程前です。近年では、樋管などの老朽化により、昭和42年度から昭和44年度にかけて県営大規模老朽ため池整備事業による全面改修が行われています。

平池には、悲しい人柱の伝説が残されています。治承2年の再築の際、たびたび堤が切れて長くもたないことから阿波民部田口成良が悩んでいたところ、^{はたおり}機織道具の「チキリ」を持った乙女を人柱にすると良いとの神様のお告げがあった。そこで、たまたま堤を通過していた女性に聞いたところ「チキリ」を持っていると答えたことからその女性を人柱にして堤防を築いたそうです。その後、堤の東の岩の間から流れ出る水の音が、「いわざら、ござら（いわなければよかった、こなければよかった）」とすすり泣くように聞こえたり、村々に疫病災難が相次いだことから、人々は人柱となった女人の霊を神として「^{ちきり}膝神社」^{まつ}に祀りました。現在、「膝神社」は池の東側にある雄山に移されています。また、池を見下ろす北堤には「乙女の像」が建てられ、いわざらござら伝説を後世に伝えています。

平池は、高松市街が一望できる高台にあり、また、仏生山公園に近いことから、四季折々の自然に恵まれた水辺空間として多くの人々に愛され、憩いの場や安らぎの場として親しまれています。



膝神社



平池を見下ろす乙女の像